

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■確認プリント

7 江戸時代の社会と文化

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) 新田</p> <p>㊦ (2) ア</p> <p>㊦ (3) エ</p> <p>㊦ (4) いわし</p>	<p>㊦ (1) 沼の干拓, 用水の整備などをおこない, 新田の開発を進めた結果, 18 世紀初めの耕地面積は, 豊臣秀吉の時代に比べて約 2 倍となっている。</p> <p>(2) イは風力でもみがらを取り除く唐箕, ウは開墾用に深く耕せる備中ぐわである。いずれも江戸時代に発明され, 農作業の効率が飛躍的に高まった。</p> <p>(3) あいは染料として藍染に利用され, 江戸時代は阿波(徳島県)を中心に栽培された。べにばな(紅花)は染料となるほか, 江戸時代には口紅としても利用された。江戸時代は出羽(山形県)を中心に栽培された。</p> <p>(4) 江戸時代, 九十九里浜では地引網によりいわし漁がおこなわれるようになり, とれたいわしは干鰯という肥料に加工された。</p>
<p>㊦ (1) 江戸</p> <p>㊦ (2) 西廻り航路</p> <p>㊦ (3) 大阪</p>	<p>㊦ (1) 五街道とは幕府が整備した最も重要な街道で, 東海道, 中山道, 甲州道中, 奥州道中, 日光道中をさし, 江戸の日本橋が起点となっている。</p> <p>(2) 西廻り航路は, 山形県の酒田, 新潟などに集められた物資を, 日本海沿岸を西に進み, 瀬戸内海を通過して大阪まで運んだ。17 世紀後半に江戸の商人河村瑞賢によって整備された。</p> <p>(3) 菱垣廻船・樽廻船は, 江戸と大阪を定期的に往復した船で, 菱垣廻船は 17 世紀前期, 樽廻船は 18 世紀半ばに始められた。</p>
<p>㊦ (1) a 井原西鶴</p> <p>㊦ b 近松門左衛門</p> <p>㊦ c 松尾芭蕉</p> <p>㊦ (2) 人形浄瑠璃</p> <p>㊦ (3) 蔵屋敷</p>	<p>㊦ (1) a 井原西鶴は大阪の町人で, 浮世草子とよばれる小説の作者。「好色一代男」「日本永代蔵」などを著した。</p> <p>b 近松門左衛門は浄瑠璃の台本の作者で, 「曾根崎心中」「国性爺合戦」などを著した。</p> <p>c 松尾芭蕉は連歌の発句から独立した俳諧を芸術として大成した。俳諧紀行文の「奥の細道」を著した。</p> <p>(2) 人形浄瑠璃は, 三味線を伴奏とする語り物に合わせて人形を操る芸能で, 現在の文楽につながっている。</p> <p>(3) 蔵屋敷は江戸・長崎・大津などにも置かれたが, 最も多かったのは大阪の中之島であった。</p>